

**製品名: MAPKAPK-2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13634**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	46kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAPKAPK2
別名	MAPKAPK2; MAP kinase-activated protein kinase 2; MAPK-activated protein kinase 2; MAPKAP kinase 2; MAPKAP-K2; MAPKAPK-2; MK-2; MK2
遺伝子 ID	9261.0
SwissProt ID	P49137
免疫原	抗血清はヒト MAPKAPK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 238-287

**背景**

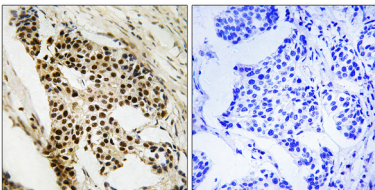
この遺伝子は、Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリーのメンバーをコードしています。このキナーゼは、p38 MAP キナーゼによる

直接リン酸化を介して制御されます。p38 MAPキナーゼと連携して、このキナーゼはストレス反応や炎症反応、核外輸送、遺伝子発現制御、細胞増殖など、多くの細胞プロセスに関与することが知られています。熱ショックタンパク質 HSP27 は、in vivo においてこのキナーゼの基質の一つであることが示されています。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素調節: 2つの異なる経路によって活性化されると考えられる。1つ目は成長因子による p42/p44 MAPK の刺激に関与し、2つ目はストレスと熱ショックによって引き起こされ、MPK2 および上流の MAPKK/MAPKKK の活性化に依存する。、機能: その生理的基質は、小さな熱ショックタンパク質 (HSP27/HSP25) であると考えられる。in vitro では、グリコーゲン合成酵素の「Ser-7」およびチロシン水酸化酵素の「Ser-19」および「Ser-40」をリン酸化することができる。このキナーゼは、ペプチド配列 Hyd-X-R-X(2)-S 中の Ser をリン酸化します。ここで、Hyd は大きな疎水性残基です (類似性による)。ERK および p38 MAPK/MAPK14 依存性の好中球応答を媒介する。好中球において、TNF $\alpha$  刺激による分泌小胞のエキソサイトーシスに関与する。貪食誘導性呼吸バースト活性にも関与する。、PTM: MAPキナーゼによってリン酸化され、活性化される。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、サブユニット: PHC2 と相互作用する。、組織特異性: 検査したすべての組織で発現する。、

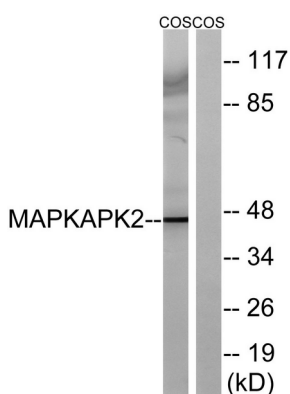
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;VEGF;神経栄養因子;

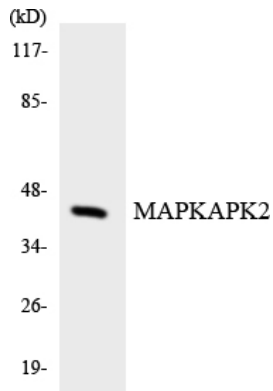
## 画像データ



MAPKAPK2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



MAPKAPK2 抗体を用いた COS 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MAPKAPK2 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。